

## カバーレターサンプル

2022年6月1日

物理療法科学編集委員長  
森下 勝行

この度、「低周波刺激周波数の鎮痛効果への影響」という表題の論文を物理療法科学誌に投稿させていただきます。本論文は、物理太郎、刺激花子、電気一郎が共著者となっています。

鎮痛を目的とした低周波治療介入は広く臨床で行われていますが、最適な刺激周波数についてはほとんどわかっていません。そこで、本研究では、膝痛を主訴とし、クリニック通院されている高齢者20名を対象に、刺激周波数5Hz、20Hz、100Hzにおける鎮痛効果の差を検討しました。低周波治療介入はそれぞれリハビリテーション開始前の15分間実施しました。その結果、周波数100Hzによる介入で有意な疼痛の軽減が示され、その効果は1週間持続することが確認されました。

本研究における我々の発見は、疼痛管理における物理療法の有用性を示すだけでなく、最適な刺激周波数の選択の重要性を表しています。本研究の結果より、慢性的な膝痛を有する高齢者の外来治療において、周波数100Hzの低周波刺激介入は疼痛管理の面で非常に有用である可能性を示唆しました。

本論文は、他の雑誌に投稿中または掲載されたものではありません。本研究は、倫理委員会の承認を得た上で、口頭および文書における説明を行い、書面にて同意を得て実施されています。申告すべき研究助成金や利益相反はありません。投稿・執筆規程を熟読し、貴雑誌のポリシーを十分理解しており、投稿に際し著者全員の了承を得ています。

責任著者  
物療 梅子  
株式会社 OP 技術治療機器開発部  
03-1111-2345  
op@tech.co.jp